

1 調査の目的・対象

- 目的 児童生徒の不登校に関する状況や欠席につながる要因等を明らかにし、不登校総合対策の検討に資する。
- 対象 全公立学校の小6 (15,593人)、中2 (15,827人)、高2 (全日制課程) (10,666人) 計 約4万人 (回答率 72.8%)

2 結果概要（主な選択肢を抽出）

○未然防止

			小学校(%)	中学校(%)	高校(%)	
すべての児童生徒	学校で安心して過ごすことができる	欠席したいと思わない児童生徒	95.4	95.6	94.5	
		欠席したいと思いつい実際に欠席した児童生徒	61.6	56.1	62.8	
欠席したいと思ったことがある児童生徒	欠席したいと思ったきっかけ	友達との人間関係	35.7	36.8	27.9	
		クラスの雰囲気	18.0	18.5	16.3	
		先生との関係	15.0	14.4	9.5	
		勉強	19.8	26.7	26.3	
	欠席あり	欠席したい気持ちを減らすための要因	安心して話せる友達がいる	58.5	55.4	43.4
		欠席した時の気持ち	自分がよくないことをしているように感じた	55.6	61.1	57.3
	欠席なし	欠席しなかった理由	学校に行かなければいけないと思った	39.5	50.2	56.3
			勉強がわからなくなることが心配	25.2	32.8	36.0
安心して話せる友達がいた			37.5	33.9	21.2	
家族に心配をかけたくない			33.0	33.1	28.0	

・ 欠席した児童生徒 : 学校生活に安心を感じている割合が低い

・ 欠席したいと思ったきっかけ : 友達との人間関係が3割前後 クラスの雰囲気・先生との関係・勉強等が1～2割程度

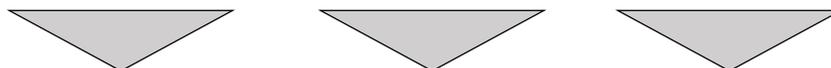
・ 欠席願望の減少要因 : 学校に安心して話せる友達がいることが全校種で高い

・ 欠席した時の気持ち : 自分がよくないことをしているように感じた児童生徒が半数以上

・ 欠席しなかった理由 : 義務意識が半数以上。友達、家族、学びとのつながりも高い

○初期対応（欠席したいと思い、実際に欠席したことがある児童生徒の回答）

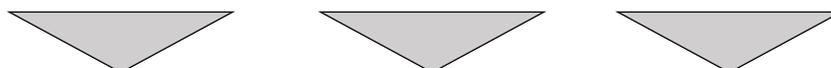
		小学校(%)	中学校(%)	高校(%)
欠席したいと思った時誰にも相談しなかった		36.2	45.1	48.4
相談した相手	家族	89.7	88.4	79.4
	担任	25.4	27.2	20.3
	友人	24.8	33.5	40.9
	スクールカウンセラー	5.6	10.2	8.2
相談しなかった理由	相手の反応が不安	40.0	35.7	25.0



- ・ 誰にも相談しなかった児童生徒が約半数（相手の反応が不安等）
- ・ 相談相手のほとんどは家族で、担任、友人も多いが、スクールカウンセラーは低い

○支援（欠席したいと思い、実際に欠席したことがある児童生徒の回答）

		小学校(%)	中学校(%)	高校(%)
欠席した時過ごしたかった場所（自宅以外）	特にない	50.8	59.2	69.3
	校内の別室	21.7	15.7	12.6
	市町の教育支援センター	8.5	6.2	※4.3
	フリースクール	9.2	6.5	※3.6



- ・ 欠席時の居場所の希望（全校種）：「特にない」が半数超 校内別室は1～2割 市町教育支援センター及びフリースクールは1割未満
- ・ （保護者調査で別室等未利用の理由＝「子どもが必要性感じず」「子どもが家から出られず」が上位、フリースクールは費用負担も）